

GONAD法によるゲノム編集動物やモノクローナル抗体を用いた基礎医学研究 -腎臓病の病態解明に向けた分子遺伝学的解析-

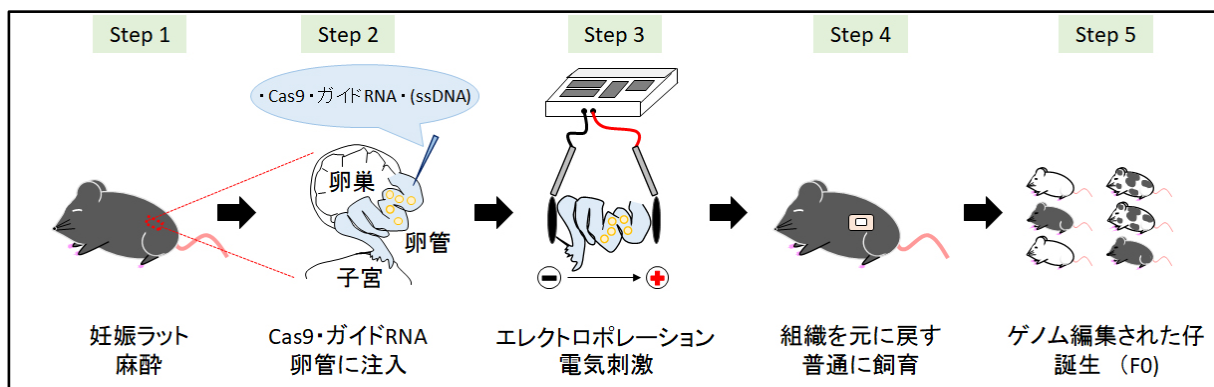
松山 誠 博士

重井医学研究所 分子遺伝部門 部長

2024年6月18日(火) 16:00-17:30

北海道大学低温科学研究所 N215講義室

重井医学研究所は社会医療法人創和会が所有する研究所であり、基礎医学的な研究を行っている。研究所では、1995年にラット腸骨リンパ節法、2006年にマウス腸骨リンパ節法を発表し、モノクローナル抗体を簡便に作製する方法を開発してきた。最近私たちは、マウスにおいて受精卵を体内から取り出すことなく、簡便にゲノム編集可能な i-GONAD 法を開発した。i-GONAD 法は卵管内にある着床前の受精卵に対して、核酸・タンパクをエレクトロポレーションによって導入し、ゲノム編集を行う方法である。さらに、i-GONAD 法を応用・発展させ、新たな遺伝子改変ラット作製法 rGONAD 法を開発した。本講演では、GONAD 法を用いた遺伝子改変マウス・ラットの作製法や、腸骨リンパ節法による簡便モノクローナル抗体作製法を紹介する。また rGONAD 法により作製した腎臓病モデルラットを用いた分子遺伝学的解析についても紹介したい。



rGONAD (Rat Genome-editing via Oviductal Nucleic Acids Delivery)法の流れ

問合せ先：北大低温研・冬眠分野 山口 良文 (bunbun@lowtem.hokudai.ac.jp)

共催：